

生ごみ減量化の新製品

～生ごみの水切り具で実用新案～

このほど、五和町二江の石山澄夫さんが考案した“生ゴミの水切り具”が、特許庁の実用新案に登録されました。これは石山さんが、市バイオマスタウン構想の一環で、6月から五和地区で実施している生ごみ分別事業に取り組んだことがきっかけ。この水切り具は、穴の開いた容器に生ごみを入れ、その上に石製のおもしを乗せ水分を切る構造。石山さんは「誰でも簡単に水切りができるようにとの思いで考案した。皆さんのお役に立てれば」と話していました。



▲石山さんと水切り具

天草上島を横断する農道が開通

～上島中央広域農道開通式～

下浦町から上天草市松島町を結ぶ総延長約23kmの「上島中央広域農道」の開通式が11月25日、市や地元関係者など約100人が参加して行われました。この農道は、農産物の流通網の整備などを目的として昭和57年に着工し、昨年11月に完成したもの。式典では、神事が行われた後、同農道事業推進協議会会長の安田市長が「農産物の流通改善のほか、生活道路としても期待している」とあいさつ。その後、開通を記念してテープカットが行われました。



▲開通を記念してテープカット

潮風が薫る秋の天草路を力走

～天草マラソン大会～

11月22日、「第4回天草マラソン大会」が本渡運動公園陸上競技場前をスタート・同競技場をフィニッシュとするコースで開催されました。

当日はあいにくの雨で肌寒い中、県内唯一のフルマラソン（日本陸上競技連盟公認コース）とハーフマラソンに、県内外から過去最多となる1,752人（フルマラソン1,064人・ハーフマラソン688人）が参加。選手たちは、潮風が薫る秋の天草路を力走しました。また、同大会には、世界陸上セビリア大会・女子マラソン銀メダリストの市橋有里さんがスペシャルゲストとして来場。市橋さんは、参加者といっしょにマラソンを楽しんだり、表彰式ではプレゼンターを務めるなど大会を盛り上げました。

このほか、同競技場内では地元の物産販売や福引き付きもち投げなども行われ、多くの来場者でにぎわいました。

なお、大会結果は次のとおりです。

- 大会結果（1位のみ。敬称略）…フルマラソン男子・田尻貴之（宇城市）、同女子・小渡正子（長崎県）、ハーフマラソン男子・福田哲哉（球磨郡錦町）、同女子・蛸原奈津恵（宮崎県）。



▲フルマラソンに参加の1,064人が一斉にスタート!!



▲沿道からは盛んな声援

▲ボランティアスタッフが大会運営をサポート



▲完走し充実した表情でゴールする選手

▲あいさつをするスペシャルゲストの市橋さん

農作物の競り売りで大にぎわい

～下田南地区文化祭～

11/28・29
天草

11月28・29日、下田南公民館で「下田南地区文化祭」が開かれました。これは同地区振興会が、農作物・手芸品の出展や学習発表などを通じて、住民の交流を深めようと毎年実施。小学生による歌や朗読発表のほか、地区住民による大正琴や日本舞踊などが披露されました。また、出展された農作物の競り売りでは、参加者が目当ての野菜などを手に入れようと、競り人の威勢の良かけ声にあわせて「100円、200円」と声をあげ、会場は大にぎわいでした。



▲新鮮な農作物を競る参加者

冬の名物イベントを楽しむ

～牛深あかね市～

12/5・6
牛深

「第20回牛深あかね市」が12月5・6日、牛深ハイヤ大橋横芝生広場一帯で開かれました。“あかね”とは、大漁を意味する牛深地方の方言。最大の呼び物“あかねタイ釣り大会”には、県内外から約1,300人が参加。1万匹のマダイが泳ぐイカダから、大物が釣れるたびに大歓声があがっていました。このほか、牛深ハイヤ保存会や地元中高生による牛深ハイヤ踊りの披露、新鮮な農水産物の販売などを実施し、約23,000人の観光客などでにぎわいました。



▲真剣なまなざしでタイ釣りをするようす

年に1度のひとときに“えびす顔”

～関西ふるさと倉岳会～

12/6
倉岳

12月6日、22回目となる「関西ふるさと倉岳会」が大阪市で行われ、関西在住の同町出身者など約200人が参加しました。同会では、総会後、舞踊や歌の披露のほか全員参加の踊りなどを実施。参加者は、年に1度の楽しいひとときを終始“えびす顔”で過ごしていました。また、今回は宮田・棚底・浦地区の各地区振興会会長が参加し“ふるさとのいま”を報告。会場では、故郷を懐かしんだり、昔の思い出話に花を咲かせるなど大いに盛り上がりしました。



▲踊りや再会を楽しむ皆さん

大学生が島民とふれあい地域を学ぶ

～熊本学園大学フィールドワーク～

12/12・13
御所浦

12月12・13日、熊本学園大学社会福祉学部の学生ら約100人が、御所浦町で1泊2日のフィールドワーク（現地研修）を行いました。これは同大学が、島で暮らす人たちの生活にふれ、地域づくりや社会福祉の現状・課題などを学ぼうと平成19年度から実施。研修では、御所浦の歴史や文化、漁業、高齢者の暮らしなどを地元住民から聞くテーマ別学習のほか、化石発掘や伝馬舟のろこぎ体験などが行われ、学生たちは島での充実した2日間を過ごしました。



▲地元住民の話聞く学生たち